

＝－＝

東海生研 ～ メールマガジン 第157号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
  - ☆平成30年度予算及び平成29年度補正予算に係る事業・公募説明会 (1月19日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 新春講演会 (1月25日)
  - ☆農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム (2月13日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産省等のイベント情報
  - ☆ゲノム編集を用いた育種の進展と今後の展望 (1月16日)
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 : NexTEP-Aタイプ (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
  - ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
  - ?民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*

<p>◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業</p>
--

☆農林水産技術会議事務局研究資金（平成30年度予算及び平成29年度補正予算）に係る事業・公募説明会

東海農政局とNPO法人東海地域生物系先端技術研究会は、民間企業、試験研究機関、大学等を対象として、農林水産技術会議事務局研究資金（平成30年度予算及び平成29年度補正予算）に係る事業・公募説明会を下記の通り開催いたします。

【開催日時】平成30年1月19日（金）13：30～16：30（13時 受付開始）

【開催場所】AP名古屋. 名駅 7階 会議室K

（名古屋市中村区名駅4丁目10-25 名駅IMA Iビル）

会場アクセス：

<https://www.tc-forum.co.jp/kansai-area/ap-nagoya/na-base/>（外部リンク）

【内容】

- （1）「イノベーション創出強化研究推進事業」の概要について
- （2）「生産性革命に向けた革新的技術開発事業」の概要について
- （3）「革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）」の新規公募の概要について
- （4）「戦略的プロジェクト研究推進事業」の概要について
- （5）その他

説明終了後に、NPO法人東海地域生物系先端技術研究会による個別相談会を行います（16時30分～）。個別相談を希望される方は、その旨を別添の参加申込書に記載して下さい。

【主催】農林水産省東海農政局、NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

【参加人員】定員60名

【お申込み】別添参加申込書に必要事項を記載し、平成30年1月16日（火）12時までに、FAX又は、メールにてNPO法人東海地域生物系先端技術研究会へお申し込み下さい。

申込用紙：下記の東海生研ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1875>

お申し込み先：NPO法人東海地域生物系先端技術研究会（大石、道村）

TEL&FAX：052-789-4586 E-mail：[bio-npo2@4.dion.ne.jp](mailto:bio-npo2@4.dion.ne.jp)

【お問い合わせ先】東海農政局生産部生産技術環境課

担当者：長谷（ながたに）、畔柳（くろやなぎ）

電話：052-746-1313

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

?中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 30年新春講演会

【開催日時】平成30年1月25日（木）15時00分～17時

【開催場所】ナディアパーク・ビジネスセンタービル 8階

レストラン 宇宙 そら 講演会場

（名古屋市中区栄三丁目18番1号 TEL 052-241-8760）

【新春基調講演】

「こだわりを世界から『商品政策に関するこれからのキーワード』」

アルファフードスタッフ株式会社 代表取締役 浅井章博氏

【新年懇親会】 17時30分～19時30分

ナディアパーク・ビジネスセンタービル 8階

レストラン 宙・そら パーティールーム

【会費】 会員 無料、会員外 1,000円

【懇親会費】 会員 一人 無料、会員二人目から5,000円

会員外 5,000円

.....

☆農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム

～日本のイチゴ生産は何処をめざすか～

【開催日時】 平成30年2月13日（火） 13時～17時50分

【開催場所】 ウィンクあいち 大会議室（902会議室）

（名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL：052-571-6131）

【主催】 農研機構 野菜花き研究部門

【講演】

Session 1 日本のイチゴ生産の現状と課題

1) 品種開発（一挙成り、四季成り品種の開発動向） 野菜花き研究部門 野口裕司氏

2) 栽培技術（栽培上、経営上の課題を報告） 静岡県農林技術研究所 井狩 徹氏

3) 高設栽培（高設栽培システム、環境制御） 岡山大学 吉田裕一氏

4) 海外との連携（品種開発、技術開発） 農林水産省 郡 健次氏

Session 2 東アジアのイチゴ生産の現状

1) 韓国イチゴ生産の現状と課題 江陵原州大学 Yeoung Young Rog氏

2) 中国イチゴ生産の現状と課題 瀋陽農業大学 Lei Jiajun氏

Session 3 総合討論

【詳細】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/12/078999.html>

【案内ポスター】 [http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/poster\\_ichigo\\_symo2018.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/poster_ichigo_symo2018.pdf)

【ポスター募集】 ポスターセッションがあり、ポスター募集が行われています。

【参加】 参加費は無料。参加予定人数 150名。

参加申し込みは、タイトルを「イチゴシンポジウム参加申し込み」として、氏名、所属を明記の上、[naroberry@ml.affrc.go.jp](mailto:naroberry@ml.affrc.go.jp) 宛にメールにてお申し込みください。

申込締切り日：1月31日

【お問い合わせ先】 農研機構 野菜花き研究部門

実行委員長 野口裕司 E-mail: [ynogu@affrc.go.jp](mailto:ynogu@affrc.go.jp)

事務局 岩崎泰永 TEL: 029-838-8681 E-mail: [iwasakiy@affrc.go.jp](mailto:iwasakiy@affrc.go.jp)

---

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

☆ 講演会「ゲノム編集を用いた育種の進展と今後の展望」

【開催日時】平成30年1月16日（木）13：30～16：30

【開催場所】共同通信会館5階 A+B会議室（東京都港区虎ノ門2-2-5）

【主催】次世代育種技術研究開発プラットフォーム

【講演内容】

- 1) 「SIP新たな育種体系の確立」におけるゲノム編集作物等の研究開発の状況  
筑波大学 江面 浩 教授)
- 2) ゲノム編集技術に関する最新知財動向 平木国際特許事務所 塚原優子 弁理士
- 3) ゲノム編集など新たな育種技術をめぐる規制動向 名古屋大学 立川雅司 教授

【開催案内】<https://www.jataff.jp/news/seminar/index.html#kouen180116>

【参加】参加費無料。定員80名が満席となり次第、受付終了。お申込みは、上記の開催案内から「申し込みフォーム」に入り、必要事項を記し、お送り下さい。

#### ◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP） ステージ3：NexTEP-タイプ（JST）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ（JST）

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究

成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

## ○グルテン不使用の100%米粉パンの製造技術の開発

農研機構食品研究部門は広島大学と共同で、市販のオーブンを使用して、補助材料（グルテンや増粘剤）なしで、基本原料（米粉、水、ドライイースト、砂糖、食塩、油脂（バター等））だけで良く膨らむ100%米粉パンを製造する技術を開発しました。米の消費拡大とともに、小麦アレルギーやセリアック病（グルテンに対する異常反応に誘発される自己免疫疾患）に悩む方への朗報となります。

この製法では特別の機器を必要とせず、原料にデンプンの損傷度が低い米粉を使用し、発酵・焼成工程を工夫することで、十分な膨らみを持ったパンを作製することができます。

- ・農研機構HP：プレスリリース

「グルテン不使用の100%米粉パンの製造技術を開発しました」

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nfri-neo/073238.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri-neo/073238.html)

## ☆病害虫関係

### ○天敵増殖資材による施設園芸の総合的害虫防除体系の確立・実証

本研究成果は、農研機構中央農業研究センターを代表機関とし、11の研究機関が参画した共同研究により生み出されたものです。本研究により、従来为天敵放飼資材（パック製剤、ボトル製剤）よりも、天敵放出性が良く、不適環境下における天敵保護効果が優れたバンカーシートが開発され、製品化されました。また、バンカーシートの最適利用条件が明らかにされるとともに、薬剤防除に依存して天敵利用が進んでいない施設栽培野菜（育苗期～定植後のキュウリ、ナス、イチゴ）、登録薬剤が少なく天敵利用も進んでいないサヤインゲン、薬剤散布回数が多い花き（ダリア）において、バンカーシートを用いた総合的害虫防除体系が構築され、利用マニュアルが作成されました。そして、本バンカーシートに導入するミヤコカブリダニ剤（施設栽培の野菜、花き等のハダニ防除用）とスワルスキーカブリダニ剤（施設栽培の野菜等のアザミウマ類、コナジラミ類の防除用）が農薬登録されました。

- ・農研機構HP：バンカーシート利用マニュアル

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/research\\_activities/files/bankahyoshi.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/files/bankahyoshi.pdf)

- ・農研機構HP：研究活動報告詳細

施設野菜の微小害虫防除に役立つ「バンカーシート利用マニュアル」

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/research\\_activities/laboratory/narc/077789.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/laboratory/narc/077789.html)

- ・農林水産省：「研究紹介2017」収録

.....

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は、NPO法人東海生研の諸活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も東海地域における産学官連携支援に邁進し、地域のネットワーク形成、競争的資金獲得、農林水産業・食品産業における研究成果の実用化・事業化に向け、鋭意、活動を進めて参りますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成30年の国内的な課題は少子化対策であると言われてはいますが、人口動態統計（厚生労働省）を見ても2006年以降、人口減少幅が拡大し続け、自然減少率も加速度を増しながら大きくなっています。団塊の世代とその後の世代の定年退職が急速に進む中で、求人倍率が上がり、人手の確保が難しくなっています。こうした中で、農林水産業・食品産業においても、人口減少対策が大きな課題となっているのではないかと考えられます。

ところで、最近読んだ本に、川上徹也著『コト消費』の嘘（角川新書、2017年11月発行）があります。2014年9月号の本メールマガジンで、著者の別冊「物を売るバカ」をご紹介しましたが、この中では、モノが溢れる時代にあっては、モノが売れなくなっているのに、「物語の持つ力をビジネスに導入」し、商品、商品以外のこと、及びこれにかかわる人の思いなどをストーリーとして発信することによって、消費者に共感してもらい、リピーターになってもらうことの重要性について述べていました。今回、著者が述べているのは、多くの企業がモノ以外のコト（例えば、イベント、観光等々）を売ることの重要性に気付き、大型ショッピングモール等でも、客寄せの各種イベントを開催するなど、様々な工夫を行っています。著者は全国各地のショッピングモール、スーパー、商店などを訪ねて分析した結果、コトがモノの販売増加に繋がっていない事例を数多く見て、コトをモノの販売増加に確実に繋げていくべきことを述べ、その手法について、幾つか提案しています。実際に調べて書いているので、販売促進を考えておられる方には、いろいろ参考になると考えられます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>